ネットワーク参加者　募集

〒100-0013　千代田区霞が関３-３-１　尚友会館６Ｆ
全国道路利用者会議内
「道路ユーザーネットワーク」係
http://road-jhuc.jp

道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

平成26年度『道路ふれあい月間』推進標語
最優秀賞
『子や孫につなげていきたい道がある』

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

三好礼子
エッセイスト・国際ラリースト
～http://www.fairytale.jp/～

「礼子さん、コワレタ？」は当っていると言えます。最近よくこう言われます。壊れていたのは昨年で、体調不良に悩まされたことはこのエッセイでもお伝えした通り。ところが年末から徐々に回復を見せてきたものですから、調子にのって組み上げた「今期32本のレース」を夢中でこなしています（以前お伝えしたのは20本？）。海外を含むトレラン21本、マラソン5本、ロゲイニング（オリエンテーリングの一種で、ポイントを探すもの）6本。楽しくて仕方ないので制御不能、という意味でコワレタ

パーソナリティーの清水とも子さんと掛け合いの「FM軽井沢」。アプリを入れれば全国何処でも聴けま～す。

新しくなったルノーコレオスで、毎週千キロ走っています。最近は長野・群馬辺りに出没多し。

急遽車を停めて、東京は調布の野川公園で花見ジョグ。トレランにも最適な自然道が続いていて天国でした。

ます。悩みは、「こんな楽しいことばかりやっていいのかしら」という後ろめたさのみ。

しかし、そんな破天荒な私を電波に乗せてサポートしてくれる強力な応援番組が、この春からスタートしました。地元長野の「FM軽井沢」で、隔週でこの32本の様子をフォローということになったのです。コーナー名は「地球ランナー」。でも、速くないどころか遅いし、57歳だし、完走すら難しいレースが沢山あるのに。でも、伝えられるという事は、本当に有り難いこと。私のテーマは「餅ベーションと進化」。餅は、そのレースに向かうときのニンジンですが、まさにランナーにとっての理想食での

左は60歳代優勝の女性（めちゃくちゃ速い）。私の右は40歳代優勝。みんな元気で笑顔がサイコー！

静岡マラソンに続いて雨の日本平桜マラソン。でも、寒冷地仕様でライダーの私は、雨は嫌いじゃない？

造語。レースは生き物で、毎回目標が違うのですが、美味しいものや景色や人を味わいたいというのは変わりません。観光や生きることそのものがコレですよね。そして、自分なりに努力して少しでも前に進む事が進化。初めて泳げたり、モトクロスでジャンプが出来た時と同じで、「できなかったことが出来る」ことが、私は生きるということではないかと思う。電波で伝えたいのは、そんなことや、アスリートでなくても役に立つような健康の秘訣でしょうか。全国どこでも聴けるインターネットラジオ（77.5MHz）なので、是非聴いてくださいね。

さて、そんな「FM軽井沢」ロゴをつけての記念すべき第一戦「新城トレイル」11キロがこの3月に行われたのですが、奇跡が起きました。なんと年代別で一位になり、表彰台へ上がったのです。50歳代、実は俊足揃いの激戦区。速い人が60歳代に移ったり、総合入賞したりと、棚ぼた式ではあったものの、死ぬほど嬉しかった。トレランを始めて5年。最初の表彰が同年の「信越五岳１１０キロ」で、ラストフィニッシャー（完走者のビリ）だったので、今回は感無量。

「続けているといいことあるね」と涙でそうでした。

しかし喜びもつかの間。今週末は、今期最初の難関が控えています。63キロ、制限時間12時間の「奥三河パワートレイル」。エリート選手しかゴールできない関門設定で、予想完走率が30％という噂です。私は「よい旅を！」と今から餅ベーションモードに切り替えました。走り方もグッズも食べ物も変え、身体も改造したけれど、足りないものはまだまだ一杯ある。でも、だからこそ、今の自分らしく闘って参ります♪

エイドでは地元の熱い歓迎が待っているらしい。コノハズクの声を聴きながら～目指そう温泉＆五平餅！

今日ばかりは車でなく人が主役

フリージャーナリスト　湯浅玲子

毎年5月3日、4日に行われる「博多どんたく港まつり」は、２００万人以上という日本最大級の人出を誇ります。祭りの中心となるのは市民も参加できるパレード。「どんたく隊」と呼ばれるさまざまなグループが趣向を凝らした仮装や振り付けで参加し、パレードの参加者だけで約５００団体、延べ３万７０００人にもなるのです。リオのカーニバルとまではいきませんが、祭り好きの博多っ子らしく街全体がカーニバルの舞台と化すのです。

このパレードが行われるのは都心のど真ん中。市役所やオフィスビル、商業施設や駅などが集中する地域を、２日間にわたって車両通行禁止にします。いつもは車であふれ、常に渋滞が起こっているような道路なのですが、この祭り期間中は人が主役。道路を「どんたく隊」が埋め尽くし、車両の通行禁止には誰も文句を言いません。

「どんたく」は平安時代の京都で始まった宮中行事「松囃子」が起源とされています。全国各地に伝わって流行した松囃子は、博多では治承３（１１７９）年に始まったと『筑前国続風土記』に記されています。その後、筑前領主となった小早川秀秋の居城に、博多商人が松囃子を仕立てて祝賀に出かけたことから、今日のような祭りの形態ができあがってきました。

博多松囃子は福神、恵比寿、大黒の三福神と稚児行列、さらに「通りもん」と呼ばれる博多の各町・各人による出し物の行列が続きました。この「通りもん」が現在の「どんたく隊」になったのです。

ちなみに「どんたく」という名称はオランダ語で日曜日を表す「ゾンタク」がなまったもの。明治時代に華美だという理由で禁止になった松囃子。けれども祭り好きの博多っ子たちは一計を案じます。明治政府の祝日を祝うという名目で松囃子を復活し、休日を意味する「どんたく」という名称をつけたのです。

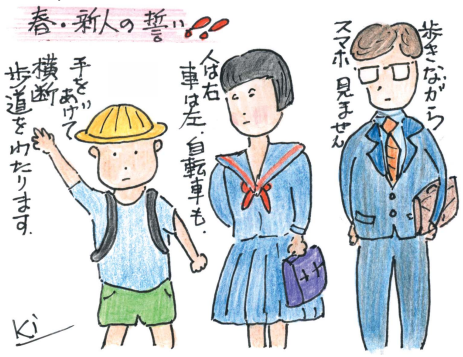
「どんたく隊」には有志の集まりや企業、学校など、さまざまな団体が参加します。企業の「どんたく隊」は新入社員教育にも活用されており、かくいう私も社会人1年生の時に会社から参加しました。ひと月前から振り付けを覚える練習が始まり、長時間のパレードはとにかく疲れました。でも、終わった後は不思議な爽快感と達成感があったことを、今でもよく覚えています。

（写真提供：福岡市）

都心の目抜き通りを行く「どんたく隊」。近年は人気キャラクターが登場することも。

きらびやかな電飾を施した花自動車も「どんたく」の名物として親しまれています。

ハッと思いました



今年も百万人超の新一年生が誕生し、身体にあわぬランドセルを担いで街にあふれます。子供の動きは予想をこえるものです。運転中に「ヒャッ」とされたドライバーさんも多いかと思います。「あぶないなぁ」と感じた時は、勝手な思い込みのまま運転をしないで、まず止まりましょう。

クルマは止まっていれば只の金属とプラスチックとゴムの塊ですから、重大な交通事故にはなり得ません。「急いでいたから・」などの言い訳は言語道断。そこで十秒や二十秒止まったからと言ってどれ程の影響があると言うのでしょうか。夏場はエアコンが効いているし、冬場は暖房が、風が吹いても雨や雪が降っていても、車内は快適じゃないですか。花粉だって遮断してくれているんです。身体をさらしている外の人を優先しましょうよ。ドライバーもクルマを降りれば、同じ条件の人・歩行者なんです。

ここまでは、ドライバーへの一言。ここからは、歩行者・自転車と道路に面した店舗の人への一言です。

子供への注意はもちろんですが、最近は回りを見ないと言うか、見ようとしていない大人が群れを成していま す。あれほど前を見ないで歩けるなんて、人類としての進化なのだろうか・と思うくらい、前を見ていない。

歩道や道路にはみ出して展示中。広告の登り旗をガードレールなどに結びつけてるけど、交差点や横断歩道付近では見通しが悪くなって危ないんですよ。

クルマに落ち度がなかったとしても、いざ事故となればクルマ側の責任が大きいのは現実です。ドライバーは、より一層の注意が必要です。それだけ大きなリスクを抱えてハンドルを握っている事を肝に銘じましょう。

今、クルマは技術革新が進み安全をサポートする機能が備わりつつあります。決して、「そうした機能があるから少々未熟でもかまわない、反応が遅くなってきたのを助けてくれる、運転への集中から少し開放される」ためのものではありません。運転に少しでも不安を感じ、自身が薄れてきたら、ハンドルを握ってはいけません。

桜が咲きほこる春。誰もが未来への期待で一杯、子供の歩みも軽やかになるこの季節。悲しい知らせを耳にしない様にドライバー、自転車、歩行者のみんなが回りを思いやる意識を持って行動しましょう。

最後に、信州大学学長の一言がすばらしい。「スマホやめますか、それとも信大生やめますか」。ここまで言われなければならなくなったのか！と思うと・情けないことです。

そして、自転車もプロレーサー？と思う様なスピードですり抜けていく。

店舗の人も看板や商品を